

つづやき

このコーナーでは各県の相談に対するとりくみ等を紹介していきます。

東京における教育相談の特徴 東京都公立学校教職員組合

東京では、日本教育会館内に「親と子と教職員の教育相談室」が設置され、きめ細かな相談に応じる体制がしっかりと整っていることもあり、東京都公立学校教職員組合（以下、東京教組）として独自に相談室を開設はしていません。

しかし、組合事務所には組合員はもとより、未組合員の方も含めて多くの教職員、そして保護者から様々な相談が持ち込まれます。相談内容によっては、「親と子と教職員の教育相談室」を紹介しています。

この数年、教職員になりたてのわが子の働き方を心配して、そのお父さん・お母さんからの相談が特に多くなったと感じています。

本人は組合に加入していないこともあり、相談をしてこないのですが、お父さんやお母さんの世代は、自分が教職員であるなしにかかわらず「困ったことがあればまず組合に相談する」ということが身についているのでしょうか、ホームページなどで調べて組合に相談の電話をします。中には娘

さんや息子さんには内緒で相談してくる方もいます。

「朝、5時には家を出て、帰宅するのは10時を過ぎるといのが毎日です。土日でも学校に出勤していますし、身体を壊してしまわないか心配で電話しました。」「職員室で大声で怒鳴られるなど、管理職によるパワハラがひどいようで、精神的に参っています。何とかならないでしょうか。」など、職場の多忙化や管理職によるパワハラ、保護者とのいきちがいなど、相談内容は多岐にわたります。出来れば本人と直接お話をして相談に乗りたいとお願いし、場合によっては直接お会いしてお話をするようになります。それがかなわない場合は、お父さんやお母さんと継続的に相談を続けることになります。

東京教組は、とても小さな組合ですが、「親と子と教職員の教育相談室」とも協力しながら、東京の学校現場の様々な悩みや困難に対する相談に応えられるようこれからも頑張っていきたいと思っています。

東京教組「独自のとりくみ」を紹介したいと思います。東京では、東京教組・東京都高等学校教職員組合・在日日本朝鮮人教職員同盟の三者で実行委員会を組織して、38年間「日朝教育交流集会」を開催してきました。東京教組は結成22年、つまり東京教組結成前から地道に取り組んできた集会なのです。会場は、都内の朝鮮学校が持ち回り。授業見学や芸術小公演。オモニたちお手製の昼食も楽しみの一つです。

私たちのとりくみ



民族舞踊を披露する朝鮮学校の子どもたち